

社寺名 伊佐爾波神社 (松山市桜谷町173)

奉納者 かんの かずえ みつとし
簡野主計 (光利)

奉納年 天保3年 (1832年)

解説 《愛媛県指定有形民俗文化財》

簡野主計は、別名を光利とも言う。その経歴は、ほとんど分かっていない。

安政3年 (1856)、松山で発行した小冊子に、『関流通俗算法』と題する本がある。著者は簡野良之助光尚という人であるが、これは主計の別名か、あるいは近親者ではないだろうかと思われる。本は9冊で、各冊九つの問題を挙げているのは和算に強い影響を与えた中国の数学書『九章算術』(紀元前100年頃)を意識したためと思われる。

右の問題は『容術』に解答が載っている。

(『愛媛県誌稿上巻』大正6年(1917))

小島 天保三 壬辰 季八月

關流 簡野主計 光利

印

術曰 鉤冪股冪相併開平方加鉤及

乘鉤加股冪二段以除乘鉤

得大圓徑以減鉤餘乘股冪以除鉤冪

乘大圓徑冪得中圓徑以除大圓名

極內減一箇餘自之加極冪以除大圓

徑以減中圓徑餘得小圓徑合問

今有直形其交罅容大中鉤

及直形其交罅容大小

三圓若千股若干問大

中 小 三 圓 若 千 股 若 千 問 大

答曰 如左術

問題文

図のように、直角三角形の辺、頂点から対辺へ垂線及び長方形に内接する3個の円がある。直角をはさむ2辺の長さが与えられたとき、3個の円の直径の長さをそれぞれ求めよ。